

平成30年1月31日放送

安全な医療を提供するために



筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 総合病院水戸協同病院
医療安全管理室 看護副部長 佐々木良枝

司会者：「安全な医療を提供する」というのはどのようなことですか？

佐々木：これまで医療は大きく進化して沢山の病気を治療できるようになりましたが、その反面非常に複雑になってしまい危険な場面も多く見受けられます。安全な医療を提供するとは、医療事故などがなく安心して医療を受けられようにする事です。

司会者：とても大事なことですね。では病院にはどのような危険があるのでしょうか？

佐々木：そうですね、病院は病を癒して健康を取り戻すところですので、治療のためにさまざまな薬剤や医療用の器械などを使用します。そのため薬剤の種類や量の違い、器械の操作間違い、患者の取り違いなどが起こります。その他にも、体力の低下しているご高齢の方もいらっしゃいますのでつまずいて転倒する危険もあります。

司会者：沢山の危険があるのですね。病院ではどのようなことに取り組んでいるのですか？

佐々木：まず第1に患者間違いをしないための対策です。

司会者：どのような時に取違いがおきるのですか？

佐々木：そうですね、例えば、佐藤と斉藤、北村と北原、佐々木と田崎など似たような名前の方で、佐藤さんとお呼びしても別の方が自分だと勘違いされ返事をしてしまうということもあります。特に、フルネームでの確認をしないと間違いがおきます。「佐藤さん」だけでは他の佐藤さんや似たような名前と取り違える危険が高くなります。

司会者：では、どのような対策をとっているのですか？

佐々木：患者さんを確認する時は自分で名乗って頂く方法をとっています。外来診察時や検査、内服、点滴などを行う場合は必ず自分からフルネームで名乗って頂くようお願いしております。また、外来では同姓同名の患者様もいらっしゃいますので、名前だけではなく生年月日で確認することもあります。

司会者：その他にどのようなことをしていますか？

佐々木：手術する患者さんの場合には、手術室に入る前に名前は勿論ですが手術する臓器や左右の部位などもご本人と共に確認するようにしています。

また、手術開始直前にも手術する医師、麻酔科医師、看護師等複数の目で声に出し確認しております。

司会者：何回もの確認作業があつて安全が守られているのですね。

佐々木：はい。そうです。

司会者：名前の確認の他にはどのような確認があるのですか？

佐々木：例えば、内服や点滴、注射を準備する時の確認です。

最近では点滴や飲み薬の取り違えがないよう機械を使用して確認を行うようになりました。それがバーコード認証システムです。スーパーやコンビニのレジで商品のバーコードから、支払金額を計算している様子をイメージしていただければ分かるかと思います。入院中の患者さんはバーコードが印刷されたリストバンドを付けており、このリストバンドと注射箋のバーコードが一致しているか認証しています。

司会者：病院のなかでもこのようなことが行われているのですね。

先ほど高齢者が多くいらっしゃるのとことでしたが、高齢者に多い危険はありますか？

佐々木：はい。高齢者に限ったことではありませんが、入院という環境の変化に対応できず、ご自宅にいると勘違いしてベッドから落ちてしまったり、トイレに行く際に転んでしまったりといったこともあります。認知機能が低下している方の場合には体に塗るクリームを口に入れてしまうこともあります。

司会者：それは大変なことですね。どのように対応されているのですか？

佐々木：一つは、環境を整えることです。例えばベッドの周りに危険なものを置かない、廊下や病室の床が濡れていないようにする、段差がある箇所には注意を促す表示をするなどです。また、入院される際にご家族と一緒にパンフレットを見て頂き、転ばないような体の使い方や転びやすいスリッパを履かないなどの協力をお願いしています。また暗くなると足元が明るく照らされるテレビ台なども導入しましたが、夜間は特に危険ですので、無理せず看護師を呼んで頂くようお願いしています。

司会者：病院の中には、医師や看護師さんだけでなく沢山の職種の方が働いていらっしゃると思いますが、入院病棟以外の場所でも何か気をつけていらっしゃるのでしょうか？

佐々木：はい。おっしゃる通り、病院には医師や看護師だけでなく薬剤師、検査技士、放射線技師、理学療法士、管理栄養士、医療事務などたくさんの職種が働いています。どこでも間違いはおこり得ますのでそれぞれの部署で対策を立ててもらっています。

例えば、栄養部では毛髪などの食材の異物混入を防ぐ工夫、リハビリでは車椅子で移動をするときに点滴などが外れ無いうにする工夫、放射線部ではMRI 検査の際に金属を持ち込まないようにする工夫などです。

司会者：どの部署もそれぞれ工夫をしているのがわかりました。おもしろい工夫はありますか？

佐々木：はい。「医療安全唱和」と言って、医療安全に関する標語を作って、スタッフで声を併せて唱えています。その中の一つをご紹介します。「おもてなし唱和」です。

お： お名前どうぞ 基本は相手に名乗ってもらう

も： もし名乗れない時 リストバンドで確認する

て： 手元の指示書で日にち・用量・用法確認

な： 内服薬は飲み込むまでを確認する

し： 信頼を獲得するには確認から

朝のミーティングで唱和し一日取り違えに注意しようと頑張る部署もあるのです。またこれに加えて、「指差し呼称」というものも実施しています。

司会者：指差し呼称とはどのようなことですか？

佐々木：電車の発車時に、JR 職員が安全を確認し指差ししているのを見かけますね。同様に危険な薬を調剤するとき、声に出し、指差ししながら確認する方法です。これは、医療界においても有効とされています。

司会者：おもしろい取り組みですね。 いままで沢山の対策、工夫をお聞きしましたが最後に最も大切だと考えていることを教えて下さい。

佐々木：はい。医療安全でもっとも大切なことは、コミュニケーションを良好にしておくことです。何故かと言いますと、事故の背景にはコミュニケーションエラーが関係していることが多いからです。例えば、連絡がうまく行かず間違っ薬を重複して飲ませてしまった。検査のため食事をしてはいけない事を伝えるのを忘れ、誤って同僚が食べさせてしまったなどですが、これはいずれも一言伝えることができたら防げた可能性があります。

そこで日頃から、スタッフ間のコミュニケーションが良く、話しやすい職場にしておくことが大切です。それは挨拶から始めるのが一番ですね。

司会者：どこの職場もコミュニケーションを良くしておくことが大事なのですね。

佐々木：今後も安全で安心な医療を提供し一日も早く病気が良くなりますよう病院全体で取り組んで参りたいと思います。ありがとうございました。